

事業再評価(原案)

四国横断自動車道
(徳島東IC ~ 徳島JCT)

2. 事業の経緯及び進捗状況

事業の経緯

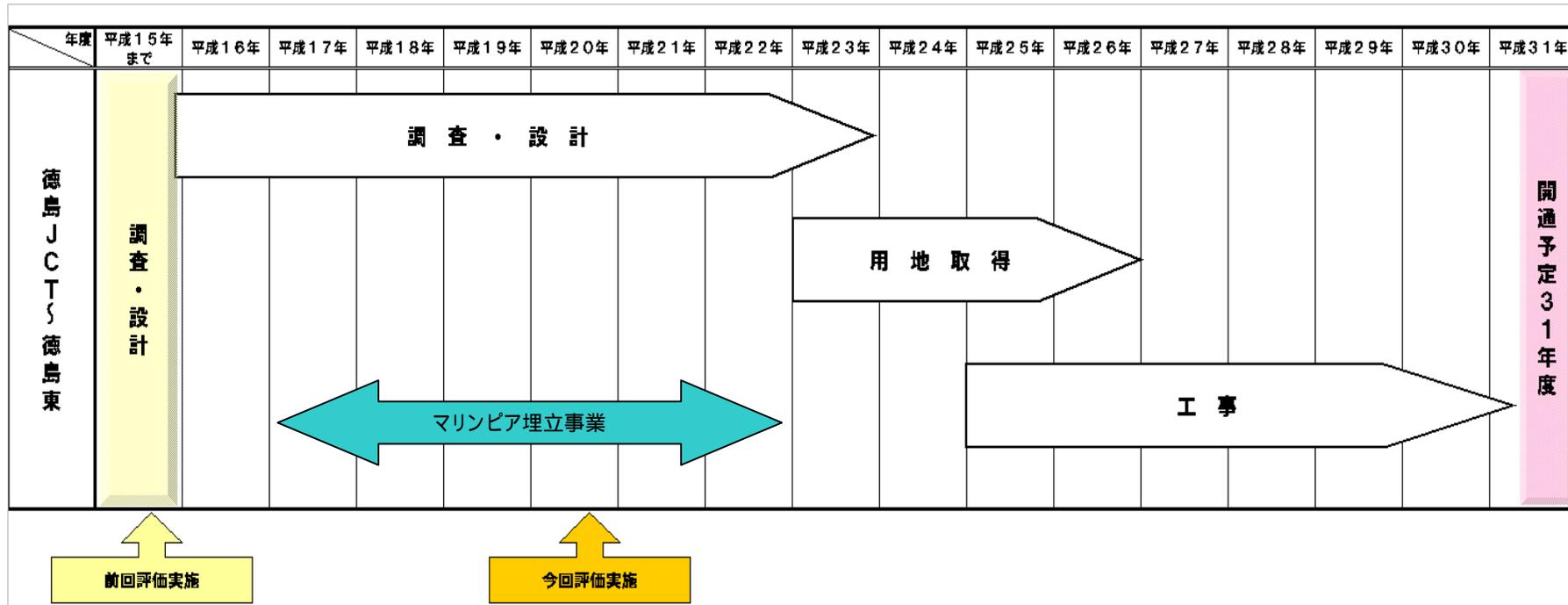
整備計画	平成 8年12月
施行命令	平成10年12月
実施計画認可	平成11年 1月
整備計画変更	平成18年 2月
事業変更許可	平成18年 3月
開通予定	平成31年度

進捗状況(平成20年度末見込み)

事業進捗率 1% (事業費ベース)
 用地取得率 0% (面積ベース)
 工事着手率 0% (延長ベース)

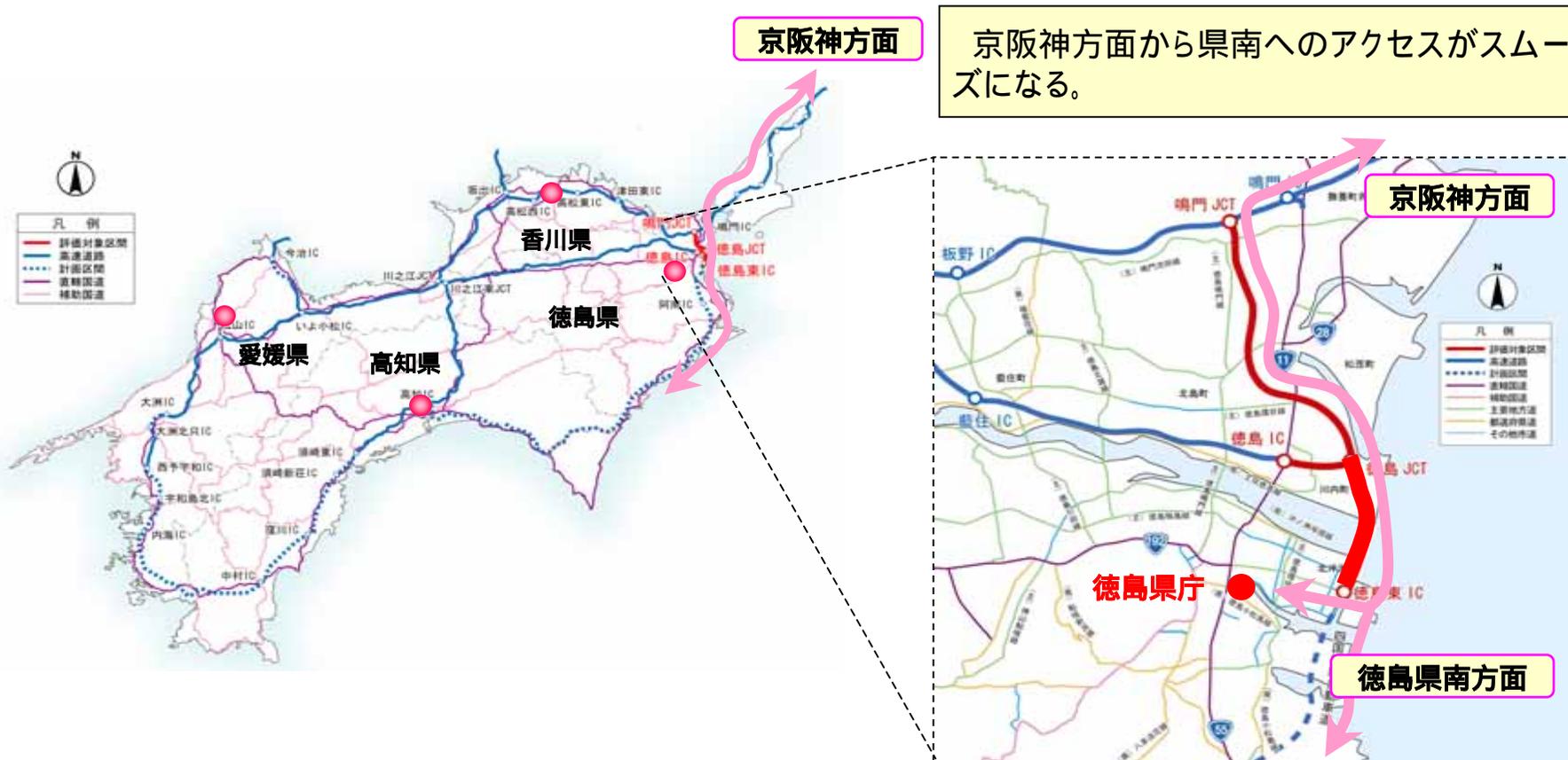
【現在の状況】

湾岸整備事業(マリンピア埋立事業)との事業調整が概ね整ったことから、工事着手に向けた地質調査の準備中である。



3 . 事業の整備効果

当該区間と直轄事業(小松島～徳島東)の整備により、四国4県的高速道路ネットワークが強化されるとともに、京阪神地域と徳島市および徳島県南地域とのアクセス向上が期待される。



3 . 事業の整備効果

徳島市内の渋滞ポイント(本町交差点付近)の回避が可能となるため、徳島市中心部の渋滞緩和が期待される。

- ↔ 高速道路整備前(国道11号(徳島本町交差点経由))
- ↔ 高速道路整備後(徳島JCT～徳島東IC～(主)徳島環状道路)



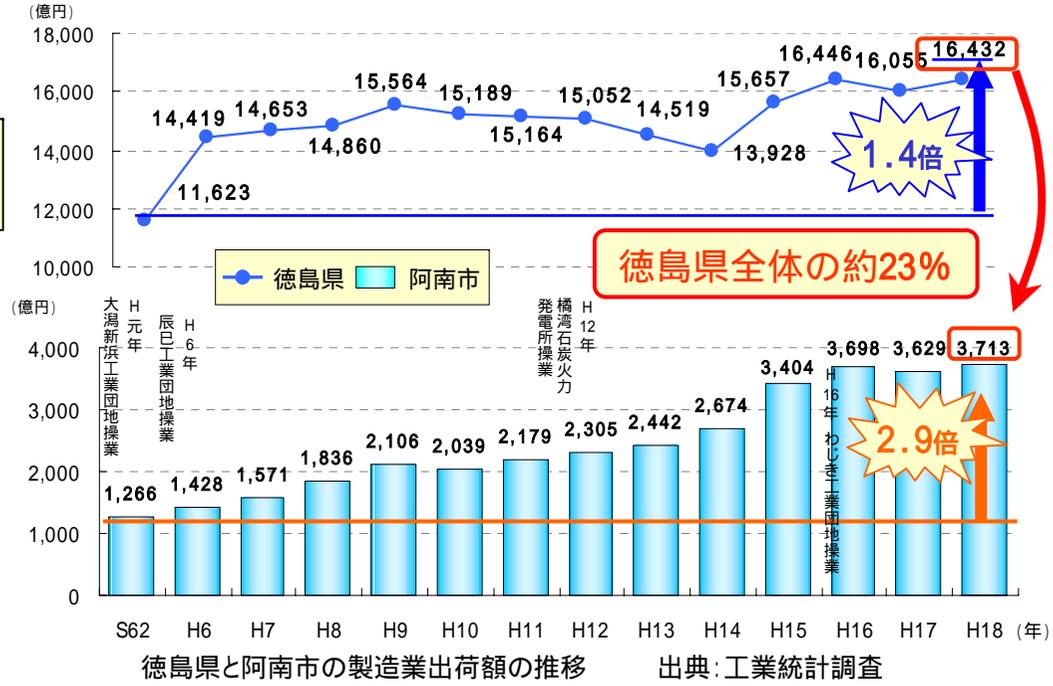
徳島本町交差点より
阿南市方向を望む

**県内屈指の渋滞ポイント
(徳島本町交差点)**
 国道11号と192号の東西・南北の幹線道路が交わる徳島本町交差点では、徳島市中心部に流入する交通が集中するために、慢性的に渋滞が発生している。

3 . 事業の整備効果

製品輸送の安全性及び効率性が向上し、地域産業の発展や雇用の促進が期待される。

徳島県南地域には各種工業団地が立地しており、特に阿南市の製造品出荷額は徳島県全体の約23%を占めている。その主力製品(LED)は世界シェアの30%に達している。



阿南市内及び周辺の工業団地

名称	規模 (㎡)	企業数	主な製造品
辰巳工業団地	1,170,016	6社	LED、紙、パルプ
わじき工業団地	249,799	2社	医療用プラスチック成型品 健康補助食品、医薬品
大湊新浜工業団地	527,217	7社	食料品、紙、パルプ、一般機械等

4 . 費用便益分析の結果

区間) 四国横断自動車道(徳島東IC ~ 徳島JCT)

便益(B) (現在価値 : H20)	走行時間短縮便益	423 億円
	走行経費減少便益	33 億円
	交通事故減少便益	15 億円
	計	471 億円
費用(C) (現在価値 : H20)	事業費	428 億円
	維持管理費	18 億円
	計	445 億円



費用便益比 $B / C = 1 . 1$

費用便益分析マニュアル(H 2 0 . 1 1 国土交通省道路局都市・地域整備局) に基づき算定

注 1) 費用及び便益額は整数止めとする。

注 2) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

5 . 対応方針（原案）

事業の必要性等に関する視点

費用対効果（B / C）は1 . 1である。

- ・ 京阪神地域と徳島市内・徳島県南地域のアクセス向上
- ・ 徳島市中心部の渋滞緩和
- ・ 物流の効率化による地域産業の活性化

など、便益に反映されていない効果も含め、当該区間の必要性は高い。

事業進捗の見込みの視点

- ・ 供用予定は平成31年度であり、関連事業との調整も概ね整ったことから、現在、事業の本格着手に向け調査・設計を進めている。

対応方針（原案）

【事業継続】

関係機関の協力を得ながら、早期の供用を目指し、事業の進捗を図っていききたい。